



国民の森林・国有林

国有林の使命を更に発展させていく

原田局長着任挨拶

7月12日、原田隆行新局長が局職員へ着任挨拶を行いました。

7月10日付けで九州森林管理局長を拝命し、本日着任しました原田隆行です。

まずもって、今回の九州北部豪雨におきまして、残念ながら命を落とされた方々のご冥福と被災された全ての皆様方に対しましてお見舞いを申し上げます。

これから復旧・復興対策に向け大変ですが、国有林または山を管理している者の真価が問われます。しっかり気を引き締め対応していただきたい。私も出来る限り陣頭に立ち努力をしていきますので、よろしくお願ひします。

私は、平成8年の12月から



着任の挨拶を行う原田局長

平成10年の3月まで、大分県の竹田営林署長を勤めさせていただきました。今回九州に戻り、九州森林管理局の一員となれたことに感謝するとともに、非常に嬉しく思っています。

さて、国有林の使命として、公益重視の管理経営と林業成長産業化への貢献という2本柱があります。これまでも池田前局長のもとで、皆さんが前向きなプロジェクトを組む、努力しているということとは聞いており、私はそのレールを更に発展させていけるように取り組んで行きたいと思っています。

三つの職場

その際、私のモットーは仕事は楽しく明るい職場ということで、私がかつてから皆さんと仕事をしたいという意図で掲げた三つの目標、一つ目は働きやすい職場、二つ目はやりがいのある職場、そして三つ目は誇りを持てる職場、

この職場づくりに向けて取り組むみたいと思っています。

近年は職員の数も減り、一人ひとりが背負う仕事の量も質も大変であることは理解しているところではあります。そういう中で、国民の期待に応える仕事をしたい。このためには、省くべきところは省く、詰めるところは詰めるということをやっていく、それを通して働きやすい職場にしたいと思っています。

また、単に働きやすいということだけではなく、今皆さんが取り組んでいる様々なプロジェクトは

これは前向きであり、やりがいのあるものです。この様な取り組みを進めていきたい。そして働きやすくてやりがいのある職場を通じて、皆さんが誇れる職場にしていきたいと思っています。

この三つの職場の実現には、いろいろな努力が必要です。皆さんと一緒に、我々が大事にしてきた国有林、森林管理局・森林管理署を誇れる職場にしたい。皆さんのご協力をお願いします。

池田前局長は林野庁へ
後任は原田前経営企画課長

7月10日付けで池田直弥前局長が林野庁へ転出、後任に原田隆行前林野部経営企画課長が就任しました。



はらだ たかゆき
原田 隆行

局長交代

【新局長の略歴は次のとおりです】

(宮崎県出身：55歳)

- 昭和61年4月 農林水産省入省 (I種・林学)
- 平成8年12月 熊本営林局 竹田営林署長
- 平成10年4月 福島県農林水産部森林土木課主幹兼課長補佐
- 平成22年4月 林野庁林政部経営課林業労働対策室長
- 平成23年5月 林野庁国有林野部経営企画課企画官 (総合調整)
- 平成25年4月 林野庁森林整備部森林利用課長
- 平成26年4月 独立行政法人森林総合研究所 森林農地整備センター審議役
- 平成27年4月 国立研究開発法人森林総合研究所 森林整備センター審議役
- 平成28年4月 林野庁国有林野部経営企画課長
- 平成29年7月 現職

「九州国有林から林業の新しい風を」の思いを託す

池田前局長退任挨拶

7月10日付けで九州を離れることになりました。短い期間でしたが、職員の皆さんには私の思いを実行していただき、本当にありがとうございました。

昨年、着任した当初は熊本地震の生々しい被災の跡が町中にあふれており、まずは復旧・復興からという思いで取り組みました。

まさに今年が復興元年であり、早期に阿蘇の傷ついた斜面を復旧し、県民が安心して暮らせる郷土を一日も早く取り戻していただきたい。また、九州北部豪雨災害についても、まずは職員の安全を第一に、県市町村と連携しながら復旧・復興に向け、局署で協力し取り組んでいただきたいと思えます。



退任の挨拶を行う池田前局長

また、私がやらなければならぬと思ったことを重点取組事項にまとめ、「九州国有林から林業の新しい風を」ということで、我々林業技術者がしっかりとリードし活躍しなければならぬ。もっと力をつけ地域に目を向け、国有林と民有林が一体となり森林を考えるとといった習慣を身につけながら、これからの農山村地域を支えていく人材で

あり組織になっていただきたい。

技術開発とシカ対策

そのためには、これから迎える伐採跡地の再生のため、コスト・人手をかけずに森林をつくる技術を開発しないと、これからの林業は成立しないのではな

いかと思ひ、人吉に試験地を設定しましたが、各署各地域の環境に応じた、省力化した森林再生の技術開発を国有林が先頭に立ち進めるとともに、足腰の強い効率的な仕事の出来る林業事業体を育てていくことも我々の使命であると思っています。

多様性の保全という観点から環境を守るといふことが、我々国有林の重要な使命だと思っていますので、地域と連携した捕獲、植生回復の措置・植栽など、よく山を見て考えながら取り組んでいただきたいと思います。

人材育成への取組

また、これらを実行するのは人であり人材の育成が大事です。国有林の若手職員を含めた技術の継承、人材育成を力を合わせてやっていく。それはある意味高校生や大学生の教育も含めて幅広くやっていかなければならないと思ひ、今回大学との協定を結びながら人材育成についても取り組んできたところです。

こういったことを重ねながら、地域から信頼され頼りにされる国有林を目指して行かなければならないという思いで活動してきました。

最後に、我々でなければ出来ないことはたくさんあります。皆さん引き続き力を合わせて、「九州国有林から林業の新しい風を」という思いで取り組んでいただきたいと思います。短い間でしたがありがとうございました。

屋久島外来種対策 行政連絡会を設立

【屋久島森林管理署】7月26日

屋久島森林生態系保全センター会議室において、屋久島外来種対策行政連絡会の設立と本年度第一回の会議を、当署、屋久島森林生態系保全センター、環境省自然保護官事務所、鹿児島県屋久島事務所、屋久島町、鹿児島県屋久島環境文化財団の関係者12名が参加して開きました。

この屋久島外来種対策行政連絡会は、関係行政機関が外来種についての情報・認識を共有し取り組みを推進することにより、世界自然遺産地域をはじめとする貴重な自然資源を有する地域



第1回の行政連絡会の模様

の適切な生態系保護と、農業被害対策を含めた生活環境の保全に努めることを目的に、屋久島森林生態系保全センターと屋久島自然保護官事務所が中心となり各機関と調整し、設立の準備を進めてきたものです。

会議では、保全センターの永山博美自然再生指導官の司会進行により、まずは連絡会の設立について関係機関から正式に同意が得られたのち、外来種に係わる予防・監視・対策など会の活動内容の検討、各機関の現在までの取組状況の報告、次回の開催日程などについて協議を行いました。

現在、屋久島では種々の外来種が侵入・定着してきており、動物ではタヌキ、ノネコ、イチモンジハムシ、ヤンバルトサカヤツテなど、植物ではアブラギリ、ギンネム、オオキンケイギク、シロノセンダングサなどがあり、各機関で駆除などの対応を行っています。

この度の連絡会の設立により、現在国内で問題となっているヒアリが屋久島に侵入した際に、本連絡会を受け皿にして迅速な対応を図ること、これまで以上に外来種対策を関係機関で連絡調整しながら実施していくこと、などを確認出来ました。

支援功労賞を授与

【北薩森林管理署】6月26日に当署の川畑勇二地域技術官が伊佐警察署長から警察署支援功労賞を授与されました。

川畑地域技術官は、2002年から警察署柔道場で少年柔道の育成に努めるとともに、警察署に木製の朝礼台を寄贈するなどの支援を行ってきましたがこれまでの支援活動に加え、今回、伊佐警察署の正面玄関と道路側壁面に設置する木製の看板を寄贈したことから、支援功労賞の授与となったものです。伊佐警察署は築50年の古い庁舎で、外から見ても警察署として

て分かりづらい建物となっていました。6月1日に新しい看板が設置され、より市民に身近な警察署として新たな表情を見せています。



授与式の模様（左） 寄贈した看板の前にて

米国の教授が現地調査

【屋久島森林管理署】7月20日九州森林管理局と鹿児島大学が

締結している「九州の林業再生のための必要な人材育成等に関する協定」の取り組みの一環として、農学部農林環境科学科の鶴川信准教授からの要請に応じて、アメリカのニューハンプシャー大学地球・海洋・宇宙センターのホビー教授の屋久島原生林現地調査の受け入れを行いました。

ホビー教授は、森林生態系における窒素循環の世界的な権威であり、今回は鹿児島大学をはじめ、京都大学、森林総合研究所においてセミナーを開くために

に来日されました。

当日はホビー教授夫妻と鶴川准教授に、当署から川畑充郎署長と保全センターから古市真二郎所長、奥村克生生態系管理指導官の3名が同行して、縄文杉周辺において屋久島原生林における種組成、林床状態、土壌の現状把握の現地調査を行うとともに、ホビー教授に対して屋久島の森林生態系に関する現状や課題などについて説明しました。

また、ホビー教授が森林内にある土理木に大変興味を示されたため、当署安房貯木場にも案内し土理木の生産販売状況について説明しました。

ホビー教授は、屋久島の森林生態系のすばらしさに大変感動

しています。私自身は、大学で森林に関して学び、行政・民間の林業会社・森林組合等を経験し、今は、有害鳥獣対策も兼ねた獣肉処理施設

拡大させています。人と山林の関係が希薄になってしまった中で、人も野生鳥獣も共生できる健全な山づくりとはなんだろうと考えてしまいます。

美しく強い森林づくり

林づくりを森林所有者だけの意向では決められないのではないかと思います。今後も日本各地での豪雨が予想される中で、災害に強い森林づくりを皆で模索していかなければとも思

設で働いています。猪と鹿を食肉用に解体処理しています。今年には狩猟免許を再取得し捕獲もする予定です。野生鳥獣はその生息域と数を

また、先日、祖母傾山系がユネスコエコパークに登録されました。その豊かな自然がもっと多くの人たちに知られ、訪れる人が増えることを願います。私

も山歩きは大好きです。天然林はもちろん、人工林でも、美しい森林に心癒されます。清らかな水と緑を子供たちに引継ぎなければと思います。民有林も木材生産だけでなく自然環境保全に配慮した森林となるよう、森林づくりの先駆者としての国有林の取り組みに期待しています。日本のフォレストの活躍をもっと知りたく、国有林モニタールに応募させていただきます。

（大分県日田市在住）



針崎 実さん

現在、私は大分県日田市に住んでいます。先日の九州北部豪雨では、福岡県朝倉市・東峰村や日田市の北部地域での豪雨災



コンテナ苗供給調整会議及び 生産技術向上検討会を開催

当局では、7月20・21日の2日間に渡り「平成29年度コンテナ苗供給調整会議及び生産技術向上検討会」を人吉市で開きました。

これは、主伐・再造林の推進に伴い、造林事業の低コスト化への期待が高まっているコンテナ苗の、需給調整と生産者の育苗技術向上を図ることを目的としたもので、九州森林管理局では2013年度から毎年開いています。

当日は、九州各県の樹苗生産組合、県林務担当者及び研究機関、森林総合研究所九州支所、林木育種センター九州育種場、森林整備センター九州整備局、



調整会議及び検討会の模様

日本森林技術協会、当局の職員など105人が出席しました。

苗木の安定的な供給を

コンテナ苗供給調整会議では、山部義臣森林整備課長が「コンテナ苗の出荷につきまして、各県組の苗木生産者のおかげをもちまして、安定的に供給がなされる体制づくりが整いつつあると考えているが、更にバランスのとれた苗木が出荷されるようお願いしたい」とあいさつがありました。

その後、松下俊二造林係長からは、17・18年の各県苗連の出荷量を基に、民有林・国有林の需要見通しを示しながら、関係者による苗木調整を行いました。

育苗技術の発展に向けて

引き続き、生産技術向上検討会を開き、甲斐博文技術普及課長が「九州森林管理局では、トータルコストの縮減の一環として、マルチキャビティコンテナ苗を活用した育林経費のコストダウンに取り組んでおり、再造林に不可欠なツールである。本日の会議が実りあるものとなり、



担当者より取り組みの説明

今後の育苗技術が更に発展されることを期待する」とあいさつがありました。

その後、苗木生産者を代表し熊本樹苗組合の坂本信介氏から「育苗技術の紹介」、研究機関を代表し、森林総合研究所九州支所の野宮治人氏から「スギ摘枝強度と今後の成長」、林木育種センター九州育種場の倉本哲嗣氏から「エリートツリーと精英樹の成長」、日本森林技術協会九州事務所の中村松三氏から「コンテナ苗をめぐる最新の研究等の情報」について話題提供があり、多くの意見・質問が寄せられ、活発な検討会となりました。

翌日は、熊本南部森林管理署管内西浦国有林21号林小班の、低コストモデル実証試験地において、コンテナ苗と特定母樹など優良品種を組み合わせ、低コ

スト造林を実証する試験地などについて、各試験担当者より取り組みの説明があり、その後活発な意見交換を行い、全日程を終了しました。

（担当）森林整備課・ 技術普及課

女性職員の活躍に向けて

【熊本南部森林管理署】6月27日、当署会議室において「女性の活躍、仕事と生活の調和と推進意見交換会」を開きました。

はじめに、濱田秀一郎熊本南部森林管理署長から「組織として、社会的性差の排除により多角的視点からの考え方が職場を活性化させると考える。また、育児や介護などの生活と仕事の両立を推進することとされている。これらを実現するために、まずは女性が働きやすい職場環境づくりが重要であり、職場内での課題や改善点などを明確にし、できることから解決策を講じて参りたい」と挨拶がありました。

意見交換会では、昨年話題になった業務の振替や書類の集配業務の効率化などの課題や意見に対する改善報告が行われ、女性職員からは感謝の言葉をいただきました。

また、小さな子供を持つ家庭での、子供の突発的な病気や幼稚園行事など、仕事と生活の調和の難しさについての実情や、職場環境への意見など活発な意見交換が行われました。

女性職員からは、「まずは相談できる環境にあることが、仕事と生活の調和を考える上で安心して勤務ができる」との感想もありました。

この意見交換会は、非常勤職員を含む女性職員の仕事と生活の調和を推進するとともに、女性職員の社会的・組織的な地位向上と、活躍を促進することを目的に昨年度から実施しているものです。

当署では、今後も女性の活躍を推進するため、女性職員が働きやすい職場環境づくりの取り組みとして、このような機会を設けることが重要であると考えています。



女性職員の意見を聞きました

沖縄で保護林管理委員会を開く

やんばる地域の現地検討会も併せて行う

7月16～18日の3日間にわたり、沖縄県のやんばる地域において、保護林設定予定地の現地検討会を行うとともに、第2回目となる保護林管理委員会を開き、各委員の認識の共有を図りました。

やんばるの現状を確認

1日目は、やんばる森林生態系保護地域(仮称)設定(案)の主要箇所を、福地ダム及び新川ダム周辺から眺望しつつ、図面なども活用しながら現状を確認しました。

2日目は、国頭村森林組合において、森林組合の組織や事業内容などについて説明を受け、将来の事業の見通しなどについて



委員による現地検討会の様子

て各委員から多くの質問がありました。

また、加工施設ではイタジイなどをおが粉などに加工して出荷しており、菌床栽培などに利用されているとの説明を受けました。

続いて、「首里城古事の森」へ移動し、沖縄森林管理署の清水俊二署長及び曲瀬川淳一森林技術指導官から、設定内容や「古事の森」の拡張について、今後、協議会で検討するとの説明がありました。

その後、ヘリパッド跡地へ移動し「表土を攪拌した方が植物が発生しやすい」「時間はかかるが今のままでも植生は回復する」などの意見が出されました。

保護林管理委員会を開く

3日目は、沖縄県森林資源センターを視察後、第2回九州森林管理局保護林管理委員会を名護市商工会の会議室で開き、環境省、沖縄県、国頭村、東村からもオブザーバーとして担当者に出席頂きました。

冒頭、林視計画保全部長から、「2日間の現地視察及び、事前



委員会の模様

に実施しておいた学識経験者や地元関係者へのヒアリング結果も踏まえつつ、具体的な設定区域について、忌憚のないご意見を賜りたい。また、スピード感を持って保護林を設定したいと考えているのでご協力をお願いしたい」との挨拶があり、その後、事務局から「やんばる森林生態系保護地域(仮称)設定(案)について説明を行いました。

保護林の連続性への意見

特に課題となっている保護林の連続性について、各委員から「保護地域のプロポーション等を考慮して33～37林班は保存地区で繋ぐべき」「人工林のリユウキウマツは天然林化を念頭に択伐することも考えられる」また、「人工林のリユウキウマツも含めて保存地区を設定すべき」「林業と保護は車の両輪

である。森林を利用しながら保護することも考えるべきでは」「保存地区と保全利用地区を適切に設定すること」「林業については、継続的な木材生産の必要性について、沖縄県及び関係村等と十分な意見交換を」などの多くの意見を頂きました。

(担当計画課)

低密度造林地で現地研修

【宮崎南部森林管理署】林業の成長産業化をめざして、現在各種取り組みを行っているところですが、植付コストの低減を含めた造林コストの低減への取り組みも民国共通の課題のひとつになっており、各署においても低密度植栽を試験的に実施しているところではあります。

このような中、当署大平国有林の分収造林販売箇所の中に、低密度造林(当時1000本/杉植栽林)により成林した箇所があり、植栽したものが伐期を迎える段階で、どのような材を生産できる林分となるか確認できることから、宮崎県森林林業協会と当署職員を含め18人の参



現地研修の様子

加のもと現地研修を行いました。現地は、分収造林の販売箇所8・56杉の中の0・3杉の低密度造林を行った箇所、現況は平均径級44㎝(22～68㎝)平均樹高23㍎(16～29㍎)で、杉当たり560本、747立方㍎となっているところです。

参加者は、立木の状況を確認したり、当署郷原寛美森林技術指導官の説明を熱心に聞きながら、低密度植栽の長所・短所、下刈り、間伐の有無などの質問を交えながら熱心にメモをとっていました。

当署では、今後とも民国連携を推進するため、民有林の林業施策に必要な情報を発信し、フィールドの提供や検討会を開くなどの取り組みを積極的に進めていきます。

「地域の安全確保に向けた森林情報の共有及び 長期的な森林の育成に関する協定」を締結する

この協定は、地域全体の安全・安心を確保するため、日常的な森林や公共施設の管理、災害発生時や復旧・復興時における計画的かつ着実な対応、長期的な視点に立った森林づくりなどについて、これまで以上に連携・協力を行っていくもので、今回、管内4つの署・支署において協定を締結しました。

【屋久島森林管理署】6月21日、屋久島町役場本庁において、屋久島町長と屋久島森林管理署長の間で、鹿児島県内では初めてとなる協定を締結しました。

当日は、当署植薄和彦森林技術指導官の司会進行のもと、荒木耕治町長と川畑充郎署長が協定書に署名・押印を行い、赤間広嗣鹿児島県屋久島事務所長と古市真二郎屋久島森林生態系保全センター所長も同席しました。

調印終了後に、川畑署長から「当署と屋久島森林生態系保全センターは、林野庁の最先機関として、屋久島町、鹿児島県屋久島事務所、屋久島町内の林業、木材産業の関係事業者の皆様とも引き続き連携・協力し、屋久島の林業・木材産業の再生に努めていきたい」と挨拶。

荒木町長から「屋久島は8割が国有林で9割が森林の島であり、災害時などに両者が情報共有していくことは重要であり、本日の協定を機会として今後益々

密接に連携・協力していきたい」との挨拶をいただきました。

当署及び保全センターでは、今回の協定締結により、改めて双方で将来に向けた連携・協力について確認できたことは大変意義のあることであり、今後とも屋久島町とあらゆる面で連携・協力していく考えです。



荒木町長（右から二人目）と

【熊本南部森林管理署】7月4日、湯前町役場において、湯前町長と熊本南部森林管理署長により協定を締結しました。

協定締結式では濱田秀一郎署長から、「民有林と国有林の連携を図りつつ、森林情報の共有

や技術的な支援を行う等効率的で広範な視点で取り組むことが重要。今回の協定締結を通して、地域の森林・林業の活性化や地域振興に貢献して参りたい」と挨拶がありました。

また、鶴田正己町長から、「以前本町での災害時に、国有林の林道を使うことにより、集落が孤立することを回避できたこともあり、地域の安全が図られることに期待している」とのコメントがありました。

本協定により、当署と湯前町がこれまで以上に連携を強化・密にし、地域の安全・安心を確保していく考えです。



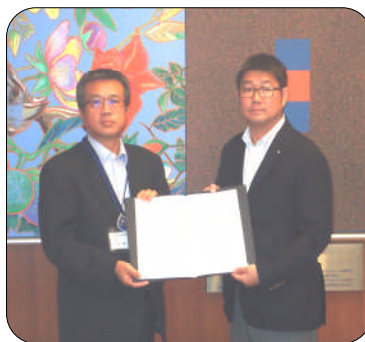
鶴田町長（左）と

【熊本森林管理署】7月4日、美里町役場において、美里町長と熊本森林管理署長との間で協定を締結しました。

協定締結後、上田泰弘町長から「日頃、目の届きにくい森林林道について、森林管理署と情

報を共有しながら地域の安全・安心に取り組みたい」との挨拶がありました。

この協定により、森林の役割である多面的機能の発揮を維持し、地域住民の生活と安全を確保するため、日頃からそれぞれが所有する森林や林道などの被害状況や、不法投棄などの情報を共有し、速やかな対応に向けて連携・協力を図っていくこととしていきます。



上田町長（右）と

【宮崎署都城支署】今回、小城市長、高原町長、えびの市長と宮崎森林管理署都城支署長との間で協定を締結しました。

調印の後、肥後正弘小城市長、日高光浩高原町長から、「近年の大雨、台風などの異常気象により重大な森林被害の発生も危惧されている。本日の協定を契機に都城支署との連携が、より緊密なものとなり、さらなる地域住民の安心・安全が得られる

ことを期待している」との挨拶がありました。

また、前杉成美支署長からは、「霧島連山を有する西諸県地域において、地域住民の安心・安全を確保するための取組が求められる中、この協定に基づき、市町と支署がこれまで以上に連携、強化を密にして、迅速・着実に対応していきたい」と挨拶を行いました。

なお、協定では、重大な森林被害が発生した場合の復旧に向けた技術的支援や、森林整備計画の作成のため市町からの要請を受け支署が可能な範囲で協力することについても盛り込んでおり、長期的な森林の育成に西諸県三市町と連携・支援を強化していくこととしています。



日高町長（右）と



肥後市長（左）と

人のうごき

8月1日付発令

中部局計画保全部長
鈴木 正勝【宮崎署長】
熊本南部森林管理署長
工藤 孝【宮崎北部署長】
宮崎北部森林管理署長
黒木 慶次郎【企画調整課監査官】
宮崎森林管理署長
飯干 好徳【(研)森林整備セ
ンター森林管理
部長】
企画調整課監査官
塚本 徹【大分西部署次長】
大分西部森林管理署次長
松永 眞弥【総務課課長補佐】
総務課課長補佐(総務担当)
篠村 和希【佐賀署総括事務
管理官】
佐賀署総括事務管理官
山脇 寿【佐賀署首席森林官】
佐賀署首席森林官
山本 正【鹿児島署首席森林
官】
鹿児島署首席森林官
沖田 寿浩【北薩署主任森林
整備官】
北薩署主任森林整備官
戸島 章治【北薩署付】
佐賀地域技術官
一山 隼人【佐賀署】

熊本南部地域技術官

井上 祐二郎【宮崎地域技
術官】

大分西部署

立石 明子【大隅署】

大隅署

竹崎 諒【熊本南部署】

林野庁

市原 増雄【大分西部署事務
管理官】

管理官】

《退職》長い間
ご苦労さまでした

7月31日付発令

濱田 秀一郎【熊本南部署】

(担当)総務課

第二回運営会議を開く

【屋久島森林管理署】7月5日、
鹿児島県屋久島事務所会議室に
おいて、屋久島地域森林整備推
進協定の平成29年度第1回運営
会議を、当署、屋久島町、鹿児
島県森林整備公社、屋久島森林
組合、オプザバーとして出席
した県屋久島事務所及び、島内
の林業・木材産業関係者を含む
24名が参加し開きました。
本協定は屋久島町内の3地区
(協定面積7241畝)におい
て、2011年4月からスター
トし、昨年4月より第2フェー
ズに入っており、これまで森林

施業の集約化、海上輸送、一体
となった路網整備などの成果を
上げてきています。

会議では、当署植薄和彦森林
技術指導官の司会進行により、
川畑充郎屋久島森林管理署長の
挨拶の後、各協定者毎に201
7年度実績報告及び18年度の事
業計画の報告がありました。

続いて、川畑署長から屋久島の
林業・木材産業再生への提案と
して、人工林資源が成熟しつつ
ある中でチップ工場の再稼働、
屋久島地杉加工センターの稼働
など新しいフォロワーの風が吹い
てきていることを受けて、チー
ム屋久島として一致団結し、林
業関係事業量の情報共有、人工
林材の安定的な供給、苗木生産
体制の確立、人工林材の需要拡
大の構築、林業担い手の確保な
どについて提案を行い、出席者



運営会議の様

からの同意を得られ、今後、実
施可能なことから進めていくこ
とが確認されました。

また、当署山邊隆広総括森林
整備官から、当署の本年度の林
業専用道の開設計画などの説明
の後、長崎県の林業成長産業化
に向けた取組事例のDVDを放
映し、国有林の誘導伐施業につ
いても併せて紹介し、生産性の
向上などについても共有するこ
とができました。

なお、運営会議後には、本年
度第1回屋久島林業推進検討会
(県主催)も開かれ、民有林関
係施策の実施予定や民国連携し
た研修会などについて意見交換
を行い、本年度も屋久島は一つ
となって各種取組を実施してい
くことを確認しました。

森のセミナーを開催

【熊本南部森林管理署】当署会
議室において、地域住民の方な
ど約20人が参加し、本年度第一
回目の「森のセミナー」を開き
ました。

講師には、環境省希少野生動
植物種保存推進員の乙益正隆氏
を迎え「遺伝資源の緊急性と重
要性について」と題し、身近に
ある葉草の紹介や近年増加繁殖
している外来種による影響など



講話に聞き入る参加者

を、植物名の由来やユーモアを
交えながらの講話があり、参加
者は熱心に聞き入っていました。
また、当署濱田秀一郎署長よ
り「林業の成長産業化に向けた
取組」と題して、国有林の業務
の紹介や生産性の向上・低コス
ト化などの取組みを説明しま
した。

次に、共催者である球磨地域
振興局の平生信男森林保全課長
より「熊本県の森林・林業・木
材産業基本計画」について説明
があり、熊本県が今後3ヶ年で
取り組んでいく事項などを紹介
しました。

参加者からは、「コンテナ苗
やシカ対策の話、また林業の取
り組みの話が聞けて大変良かった」と好評を得る中で、次回の
参加案内をしつつセミナーを終
了しました。

イベント

る」としたPRも兼ね、「山の日」の幟を立てPR活動も行いました。

【熊本森林管理署】7月23日、熊本県菊池市の竜門ダムにおいて「2017竜門ダムラフェスタ」が開かれ、当署からも「山の日」のPRと木工体験コーナーで参加しました。

当日は天候に恵まれ、気温が上がる中多くの親子連れや幅広い年齢の方々が訪れ、当署の木工体験を楽しんでいました。

木工体験の内容は、本立て作り、丸太切り・木製ペンダント作り、火起こし体験を実施し、皆さん汗を流しながら一生懸命体験されていました。

また、昨年8月11日が国民の祝日「山の日」として施行されたことから、「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝す



親子連れで丸太切り

その甲斐もあり、丸太切りの体験時などに「この木は何ですか」と聞かれる事が多々あり、当署では、今後も山や森林について興味を持っていただけるよう、機会づくりに努めることとしています。

対馬市で交流会開かれる

【長崎森林管理署】7月19日、対馬市において「シカ被害と再

造林」をテーマに、森林組合・猟友会・建設会社・行政関係者ら100人を超える参加者のもと、「九州の森林・林業・木材産業交流会 in 対馬」（九州経済連合会主催）が開かれました。

まず始めに、「大分県におけるシカ被害対策の取り組み」と題して、大分県農林水産部の渡邊芳郎副主幹より講演がありました。

その後、ネルデイスカッシュョンが行われ、コーディネーターを宮崎大農学部藤掛一郎教授パネラーとして対馬市長比田勝

尚喜氏を始め長崎県の内田陽二林政課長、対馬森林組合の中島均組合長、大分県の渡邊芳郎副主幹、当署秋山郁男署長が登壇し、シカ被害防止対策などについて意見を出し合いました。

今回のパネルディスカッションでは、去る6月19日に締結された長崎森林管理署と対馬市とのシカ被害対策協定についても話題となり、今後の民国連携による、シカ捕獲など取り組みの強化につながる有意義な交流会となりました。

多様な植物

117 カナメモチ (バラ科)

春先に生け垣を赤く染めるのはカナメモチです。カナメモチが種名ですが、牧野図鑑(牧野新日本植物図鑑)ではアカメモチとなっています。モチの名前

がついていますが、モチノキ科でなくバラ科の樹木です。園芸種と区別するには、葉柄に小さい鋸歯を確認することができます。

名前の由来は、「この材で扇の要(かなめ)をつくることとされるが、たぶんアカメの転化と思われる」と解説されています。

「扇の要」がカナメモチから

つくられているか、いくら調べても扇の要に使った記述はありませんでした。転化説が正しいようです。

新葉の赤いのは、葉の展開に葉緑素の生成が追いつかないため、赤い葉は葉緑素ができるに従って徐々に緑色に変化します。

カナメモチは九州では普通に観察できますが、東海道以西にしか分布がなく暖帯林の樹木と思われま



察すると梅の花を思わせるような可愛い花となっています。

月21日の長崎新聞にも掲載されました。



シカ対策等について検討

8月11日は「山の日」です。

8月11日は、国民の祝日「山の日」です。この機会に、山や森林の恵みを感じてみてはいかがでしょうか。



白谷雲水峽 (屋久島)